

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Application Serial No. Yet to be assigned
Filing Date June 29, 2001
Inventor Masao Nishina
Group Art Unit Unknown
Examiner Unknown
Attorney's Docket No. IS10-002
Title: Food Menu Providing System



CLAIM FOR PRIORITY

To: Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

From: George G. Grigel (Tel. 509-624-4276; Fax 509-838-3424)
Wells, St. John, Roberts, Gregory & Matkin P.S.
601 W. First Avenue, Suite 1300
Spokane, WA 99201-3828

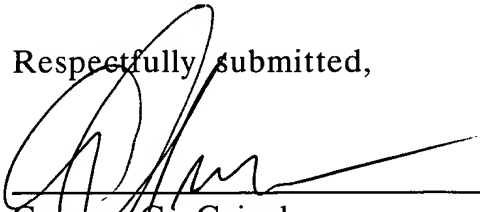
Sir:

In accordance with the provisions of 35 U.S.C. §119, applicant hereby claims the benefit of the filing date of applicant's corresponding Japanese Patent Application No. 2000-265259, filed on September 1, 2000.

A certified copy of the originally filed Japanese Patent Application is enclosed herewith. Acknowledgment of receipt of this priority document is respectfully requested.

Respectfully submitted,

Date: July 2, 2001


George G. Grigel
Reg. No.: 31,166

EL 844047309

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年 9月 1日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-265259

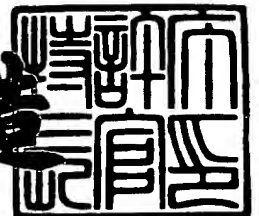
出 願 人
Applicant(s):

仁科 雅夫

2000年12月 8日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3103395

【書類名】 特許願

【整理番号】 DP000713

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都目黒区八雲 3 丁目 4 番 1 7 号

 【氏名】 仁科 雅夫

【特許出願人】

 【識別番号】 593151332

 【氏名又は名称】 仁科 雅夫

【代理人】

 【識別番号】 100085785

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 石原 昌典

【選任した代理人】

 【識別番号】 100063369

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 石原 孝志

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 059156

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 献立提供システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 利用者へ所定期間分の献立を提供する通信ネットワーク上に設けられる献立提供システムであって、該システムは、

前記所定期間の日々の献立と、

前記各献立の料理レシピと、

前記所定期間分の献立に必要な全ての食材の分量等を含む食材情報が記載された食材リストと、

を通信ネットワークを介して前記利用者へ提供することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の献立提供システムであって、前記食材リストは、前記利用者が前記所定期間分の献立に必要な食材をまとめ買いするのに使用する買い物リストであることを特徴とする献立提供システム。

【請求項 3】 請求項 2 に記載の献立提供システムであって、前記買い物リストは、電子メール対応の携帯端末へ送信されることを特徴とする献立提供システム。

【請求項 4】 請求項 1 に記載の献立提供システムであって、更に、前記食材リストは、食材を販売する販売店へも提供され、該食材リストに基づき予め販売店で前記所定期間分の献立に必要な食材をまとめておき、前記利用者へ食材をまとめて提供することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 5】 請求項 1 に記載の献立提供システムであって、更に、前記食材リストに記載された食材をまとめて利用者に宅配することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 6】 請求項 1 乃至請求項 5 の何れかに記載の献立提供システムであって、前記所定期間分の献立に必要な食材から、前記利用者の要求に応じて前記提供された献立に代えて、別の献立を提供することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 7】 請求項 1 乃至請求項 6 の何れかに記載の献立提供システムで

あって、前記食材の一部が残ったときは、その残った食材情報からその食材を用いる献立を更に提供することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 8】 請求項 1 乃至請求項 7 の何れかに記載の献立提供システムであって、前記利用者の指定する条件にあった献立を提供することを特徴とする献立提供システム。

【請求項 9】 請求項 1 乃至請求項 8 の何れかに記載の献立提供システムであって、前記料理レシピは、静止画像データ、動画像データ又は音声データの少なくとも 1 つを含むことを特徴とする献立提供システム。

【請求項 10】 請求項 1 乃至請求項 9 の何れかに記載の献立提供システムであって、前記所定期間が 1 週間であることを特徴とする献立提供システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、利用者へ所定期間分の献立を提供する献立提供システムに関し、特に、所定期間分の献立に必要な食材リストを提供することで食材を余すことなく使い切ることが可能な献立提供システムに関する。また、利用者の好みに応じて、或いは残り物の食材を用いて、別の献立を提供することが可能な献立提供システムに関する。

【0002】

【従来の技術】

日々の夕食等の食事の献立を考えるのは非常に億劫な作業であり、約 6 割の主婦が献立を考えることに頭を悩ませている（20 歳から 69 歳までの女性約 520 人へのアンケート結果 1998 年 9 月 22 日読売新聞）。また、献立を思いつかないままスーパーマーケット等へ出かけ、スーパーマーケット中をうろうろして無駄な時間を費やすこともしばしば有る（同読売新聞）。この悩みを少しでも解決すべく、種々の料理やその調理方法が記載された料理レシピ集等が存在する。これらの料理レシピは、本等の印刷物による料理レシピ集という形で提供され、通常、主婦等が料理レシピ集から夕食等の献立を決定していた。そして、料理レシピに従い、料理に使う食材を購入していた。また、近来ではパーソナルコ

ンピュータの発達により、パーソナルコンピュータ上で電子情報化された料理レシピを提供するCD-ROM等の記録媒体も存在する。更に手間を省く目的で、完成した夕食のおかずを宅配する所謂ケータリングサービス等も存在する。

【0003】

ここで、料理レシピ集により献立を決定してから食材を購入する場合、必ず残る食材が生じてしまう。これは、通常スーパーマーケット等で売られる食材は所謂パック売り等になっているので、料理レシピに書いてある食材の分量を越える量を購入せざるを得ないためである。このような無駄な食材が発生しないようにしたものに、本出願人による実公平7-46548号公報や実公平7-46549号公報、或いは特願平11-329393号等がある。これは、1週間分の献立とこれに要する食材の品名、分量等が記載された買い物リストを用いることで、効率良く食材を使用しようとしたものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、提供する料理の種類が多ければ多い程、飽きの来ない献立となるが、紙ベースで献立を提供する場合には、印刷コスト等が膨大となり、全ての利用者が満足するものを提供することは難しかった。更に、CD-ROM等の記録媒体に記録された料理レシピは、買い換える以外には情報の更新をする手段が通常ないため、流行物の料理、流行物の食材を使った料理等、即時性を必要とする献立を提供することは実質的に不可能であった。また、ケータリングサービス等は、如何に工夫してもやはり各家庭の味付けとは異なり、また、メニューが豊富であっても飽き易いものであった。更には、ケータリングサービス等では、運ばれてくる弁当箱等の包装具のゴミの問題もある。

【0005】

また、上記の実公平7-46548号公報や実公平7-46549号公報、或いは特願平11-329393号は、紙ベースの料理レシピと食材リストを提供するものなので、利用者側での献立の変更や買い過ぎた食材を更に使用するような献立の提供等、利用者からの要望を受けることができない、即ちインタラクティブなものではなかった。従って、個々の利用者の事情（食物アレルギーがある

等) や好み等に合わせた献立を提供することは現実的に不可能であり、また、提供された 1 週間分の献立の中の一部を他の料理に変更するようなこともできなかった。このため、買い物リストに従って食材を購入しても、利用者側で別の料理を作るようなことが起きた場合、結局食材が残ってしまうことになる。従って、提供されたものに必ず従わなければならないので、使い勝手が悪いものであった。更に、日により急に料理を提供する人数が減ることや外食することがあるので、このような場合、使用する食材が少なく済んでしまうので、こうして残った食材を効率良く調理するのに結局頭を悩ませることになっていた。

【 0 0 0 6 】

本発明は、斯かる実情に鑑み、利用者の側で任意に献立の変更が可能で、且つ食材の残り物を減らし、更に新しい料理の献立を即座に提供可能な献立提供システムを提供しようとするものである。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

上述した本発明の目的を達成するために、利用者へ所定期間分の献立を提供する通信ネットワーク上に設けられる本発明による献立提供システムは、前記所定期間の日々の献立と、前記各献立の料理レシピと、前記所定期間分の献立に必要な全ての食材の分量等を含む食材情報が記載された食材リストとを通信ネットワークを介して前記利用者へ提供するものである。

【 0 0 0 8 】

食材リストは、前記利用者が前記所定期間分の献立に必要な食材をまとめて買いするのに使用する買い物リストである。

【 0 0 0 9 】

買い物リストは、電子メール対応の携帯端末へ送信すれば良い。

【 0 0 1 0 】

更に、前記食材リストは、食材を販売する販売店へも提供され、該食材リストに基づき予め販売店で前記所定期間分の献立に必要な食材をまとめておき、前記利用者へ食材をまとめて提供しても良い。

【 0 0 1 1 】

更に、前記食材リストに記載された食材をまとめて利用者に宅配しても良い。

【 0 0 1 2 】

所定期間分の献立に必要な食材から、前記利用者の要求に応じて前記提供された献立に代えて、別の献立を提供することも可能である。

【 0 0 1 3 】

食材の一部が残ったときは、その残った食材情報からその食材を用いる献立を更に提供しても良い。

【 0 0 1 4 】

利用者が所定の条件を指定し、それにあった献立を提供することも可能である。

【 0 0 1 5 】

また、所定期間は、1週間とすることが可能である。

【 0 0 1 6 】

上記手段によれば、所定期間分、例えば1週間分の献立を通信ネットワークを介して提供するので、流行物の料理にも即時に対応可能である。また、まとめ買いするのに使用できる買い物リストを提供するので無駄のない買い物が可能である。または、食材をまとめて利用者へ配達等することで、より手間を省ける。更に、利用者の好みに応じてインタラクティブに献立を変更可能である。また、食材が残ったときにはその食材情報から更に別の献立を提供することで、より無駄を無くして有効に食材を消費することが可能であるという作用・効果が得られる。

【 0 0 1 7 】

更に、本発明によれば、食材をまとめ買いする前後に関わり無くいつでも献立を変更することが可能であるので、食材をまとめ買いする前に予め献立を変更しても良いし、食材をまとめ買いした後にあまった食材等をベースに献立を変更しても良いという極めて自由度の高いシステムを提供可能である。

【 0 0 1 8 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図示例と共に説明する。

【 0 0 1 9 】

図 1 は、本発明の献立提供システムの概略を示すブロック図である。図示のように、本発明の献立提供システムは、本システムの利用者 1 が、インターネットに代表される通信ネットワークを介して献立提供システム 2 へ献立を要求し、その要求に従って献立提供システム 2 が所定期間分、例えば 1 週間分の献立、料理レシピ、及び食材リストを利用者 1 へ通信ネットワークを介して提供するものである。具体的には、例えば献立提供システム 2 は、通信ネットワーク上に設けられるサーバ上で稼動する献立提供サイトであって、利用者 1 がパーソナルコンピュータ等で稼動する HTML ブラウザを用いて献立提供サイトにアクセスする。献立提供サイトには、食物アレルギー等で除かなければならない食材、料理を提供する人数、献立を提供する期間等、利用者が所定の条件を設定可能となっている。なお、提供する献立は、一般家庭用の通常の献立以外に、糖尿病や高血圧等、食事制限のある者への献立や、ダイエット用の献立等を提供することも勿論可能である。献立を決定するにあたっては、同一のメニューを頻繁に出さないようにすることが望ましい。また、利用者 1 に送信される食材リストは、利用者 1 がスーパーマーケット等でまとめ買いするのに使用できるように、提供された期間分の献立に用いられる食材の全てがまとめられて記載されていることが望ましい。更に、図 1 の点線で示すように、食材自身を宅配することも勿論可能である。

【 0 0 2 0 】

次に、図 2 の本発明の献立提供システムの流れを説明するためのフローチャートを用いて、より具体的に本発明の献立提供システムを説明する。まず利用者 1 が献立提供システム 2 にアクセスし、所定期間分の献立を要求する（ステップ 2 0 1）。要求するにあたっては、上述のように種々の条件を設定することが可能である。

【 0 0 2 1 】

献立要求があると、献立提供システム 2 は、所定期間の日々の献立と、各献立の料理レシピと、所定期間分の献立に必要な全ての食材の分量等を含む食材情報が記載された食材リストとを通信ネットワークを介して利用者 1 へ提供する（ステップ 2 0 2）。具体的には、HTML ブラウザで表示可能な形式で利用者 1 の

パーソナルコンピュータ等の表示画面上に表示する。なお、これらのデータを利用者1のパーソナルコンピュータ等へダウンロードして利用することも当然可能である。更に、電子メールにより各データを送信することも勿論可能である。料理レシピ等は、静止画像、或いは動画データと共に表示することが可能であるため、作り方等も容易に把握することができる。また、その際、調理時間、調理方法等を音声等で利用者1へ知らせることも可能である。即ち、調味料の種類、量や、どの食材をどういう段取りで、どのくらいの時間、どのように調理するか等を音声でガイドするようにし、所定の焼き時間、煮込み時間等が経つと終了の合図等を送るようにする。このように、実際の調理時間に合わせて音声等によりガイドすることによって、表示画面を常に見ている必要はなくなり、別の調理作業や他の家事労働を平行してやっても、料理を焦がしてしまったり、茹で過ぎたりすることもなくなる。

【0022】

提供された食材リストに基づいて、利用者1は、スーパーマーケット等で食材をまとめ買いする。ここで、所定期間が1週間程度の期間であれば全てを一度にまとめ買いすることが可能であるが、1ヶ月程度の長期の献立を提供する場合は、数回に分けた買い物リストを提供することが望ましい。このように所定期間で使用する食材をまとめて購入することで、食材を効率良く消費でき、無駄に食材を残すようなことを防止することが可能である。なお、食材リストをスーパーマーケット等に持って行く場合は、食材リストをプリントアウトして持っていけば良いが、例えば献立提供システム2から食材リストを提供するときに、利用者の所有する電子メール対応の携帯端末等に送信すれば、わざわざプリントアウトすることなく簡単にまとめ買いリストをスーパーマーケット等で確認することが可能となる。

【0023】

ここで、スーパーマーケット等の食材を扱う販売店と提携することにより、購入するのにかかる時間を節約することが可能となる。即ち、食材リストを利用者1へ送信するのと同時に、提携した販売店にも同じ食材リストを送信しておく。販売店に送信される食材リストには、利用者1の名前等が含まれており、各利用

者の識別が可能となっている。販売店では、送信された食材リストに基づき、予め所定期間分の献立に使用する食材をひとまとめにしておく。そして、利用者1は、販売店に出向き、あらかじめまとめにされて用意された食材を購入するだけで買い物を済ませることが可能となる。このようにすることで、利用者1自らが販売店の中をうろうろ歩き回って食材リストの食材をまとめ買いする必要がなくなるので、まとめ買いの時間を大幅に軽減することが可能となる。この場合、販売店側でも無駄な仕入れを減らすという利点も生じる。なお、上述したように、食材自体をまとめて利用者1へ宅配することも勿論可能である。

【0024】

そして、例えば、和食メニューが続いている場合に一部を中華にしたいとか、特定の日には外食するからその日の献立は要らない等、提供された献立に変更が必要となる場合がある（ステップ203）。献立の変更が必要な場合、利用者1は変更要求を献立提供システム2へ行う（ステップ204）。具体的には、例えば変更したい献立を利用者1が指定すると、献立提供システム2は、その献立で使用する予定になっている食材情報から、他の献立を決定する。このとき、利用者1は、和食、洋食、中華等の種別や肉、魚等の食材の好み等、種々の条件を指定することが可能であることが好ましい。そして、提供された献立に代えて決定された献立、その献立の料理レシピ、及び買い足さなければならない食材があればその食材リストを提供する（ステップ205）。なお、変更したい献立が複数ある場合は複数の献立に対する変更要求を行えることは勿論である。また、新たに提供された献立も変更したい場合には、再度変更要求を行うことが可能なことは言うまでもない。更に、提供する人数が減った場合等は、再度献立提供システムへ変更要求を行うことで、献立は変えなくても料理レシピに記載の食材の分量等を変更して提供することも勿論可能である。なお、献立の変更要求は、利用者1が食材を購入前に予め変更しても良いし、利用者1が食材リストに基づき食材を購入した後に行っても良い。食材を購入した後でも献立が変更可能なのは、後に説明するように食材情報から献立を提供できるためである。従って、献立を変更しても食材を無駄にすることは無い。

【0025】

このようにして提供された食材リストに基づいてまとめ買いし、提供された献立に従って料理レシピの通り料理を調理しても、所謂パック売り等で食材リストに記載された分量よりも多く購入してしまい食材が残ってしまうことがある。また、例えば当初は1週間全て家族全員で夕食を食べる予定であったが、急な用事等で料理を提供する人数が減った場合や、家で夕食を取らずに外食した場合等でも食材が残ってしまうことがある。このように食材が残ってしまった場合（ステップ206）には、利用者1は、その残り物の食材の名前や分量等の食材情報を献立提供システム2へ与える（ステップ207）。なお、予め提供されていた食材リストには載っていなかった食材、例えば頂き物の食材、又は好んで食べたい食材、或いはスーパーマーケットで特売されている食材等、種々の食材の食材情報を与えることが可能であることは勿論である。こうすることで、本システムを利用してまとめ買いした食材以外の冷蔵庫の中の残り物の食材等も有効に消費することが可能となる。

【0026】

献立提供システム2は、与えられた食材情報から、その食材を用いる献立及び料理レシピを更に提供する（ステップ208）。ここで、与えられた食材情報のうち、分量が入力されている食材に関しては、その分量も考慮してその分量内で調理できる献立を検索することが望ましい。但し、この分量に限定されることは無く、足りなければ食材リストに追加することは勿論である。また、他に買い足さなければならない食材があればその食材も含めて食材リストを提供する。なお、食材情報を献立提供システムに与える場合には、本出願人による特願2000-242797の「料理レシピ提供システム及び料理レシピ提供プログラムを記録したコンピュータ読取可能な記録媒体」を用いることが可能である。また、継続的に本発明による献立提供システムを利用する場合には、ステップ208で提供する献立等は、次回の所定期間、例えば次週の献立に組み込むことが可能であることは勿論である。

【0027】

なお、本発明の献立提供システムは、上述の図示例にのみ限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論

である。例えば、刺身等の生ものの食材の場合等、まとめ買いに適さない食材の場合は、当日に食材を購入することを妨げるものではない。このような場合は、献立の変更要求を行えば良いわけである。

【 0 0 2 8 】

【発明の効果】

以上、説明したように本発明の献立提供システムによれば、所定期間分の献立を料理レシピとまとめ買い用の買い物リストと共に提供することで効率良く食材を消費することが可能であり、且つ、利用者の側で任意に献立の変更が可能で、更に新しい料理の献立を即座に提供可能であるという優れた効果を奏し得る。献立が単に与えられるだけではなく、利用者の側で任意に変更可能であるため飽きられることがなく、また、与えられた献立とは別の料理を作ったとしても、まとめ買いした食材を残さないように再度献立を立て直すので、残り物の食材を腐らせたりすることなく効率良く食材を消費することが可能であるという効果もある。更に、献立提供システム 2 が提供する献立は、電子化された情報なので、容易に常に新しい献立とすることが可能であるため、例えばテレビの料理番組で放送された料理や流行物の料理等にも即座に対応可能である。

【 0 0 2 9 】

更に付け加えるならば、本発明の献立提供システムによれば、献立を考えるために要する時間がほぼ皆無になるため、近年の共働きの女性等への家事労働の肉体的、精神的、更には時間的負担が大幅に軽減されることになる。また、まとめ買い用の買い物リストを提供するので、予め買い物すべきものが決まっているため、買い物に要する時間も大幅に軽減されることになる。従って、限られた時間を有効に活用することが可能となり、人生をよりエンジョイする生活の実現に大きな力となる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は、本発明の献立提供システムの概略を示すブロック図である。

【図 2】

図 2 は、本発明の献立提供システムの流れを説明するためのフローチャートで

ある。

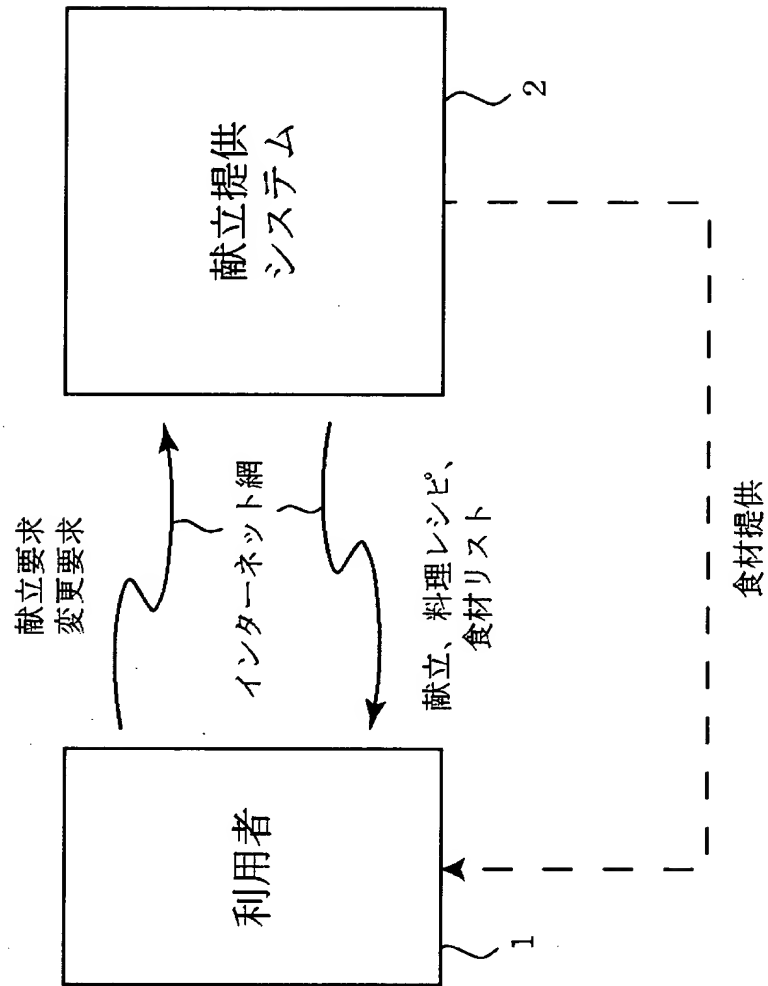
【符号の説明】

- 1 利用者
- 2 献立提供システム

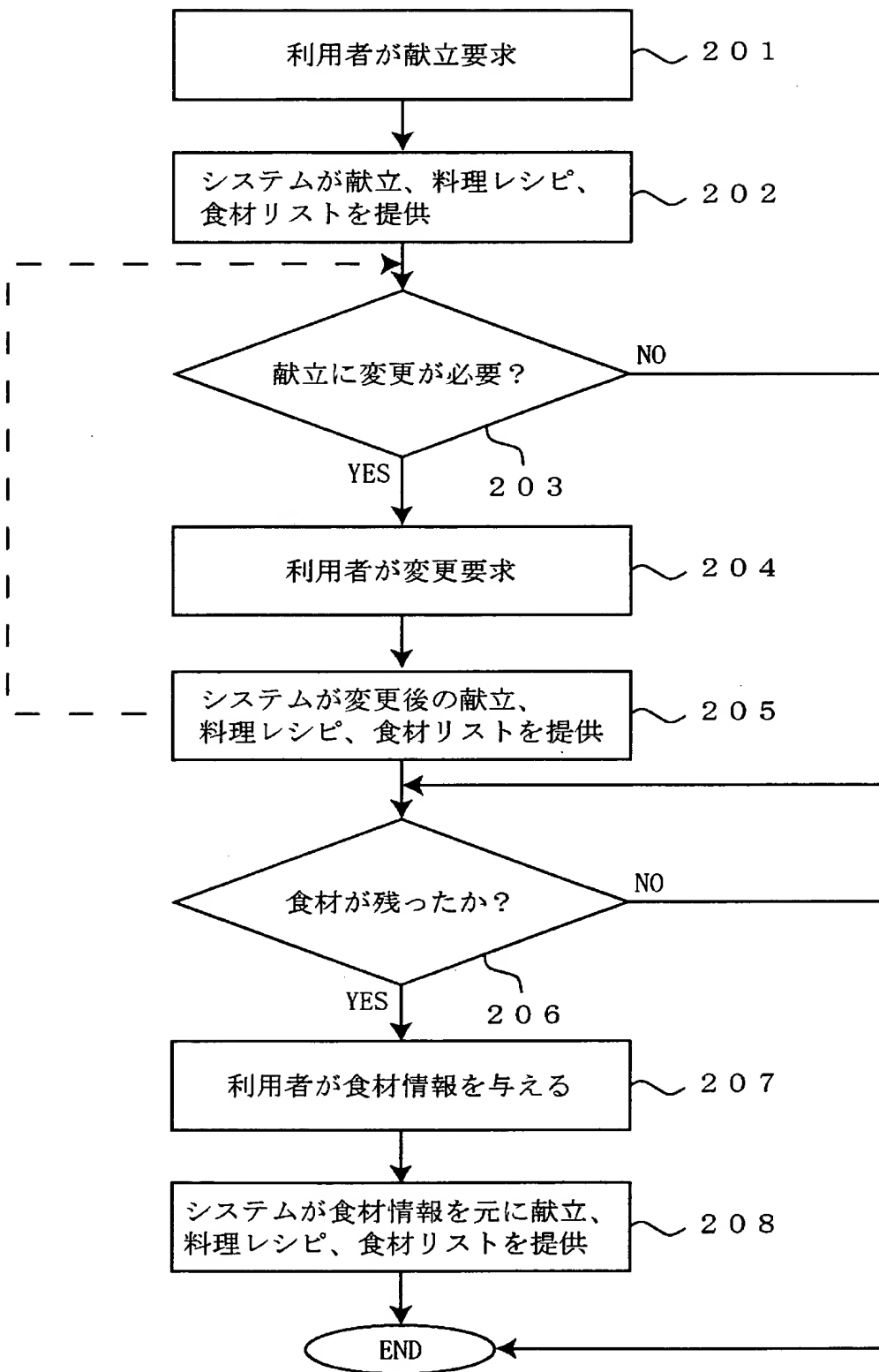
【書類名】

図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 利用者の側で任意に献立の変更が可能で、且つ食材の残り物を減らし、更に新しい料理の献立を即座に提供可能な献立提供システムを提供する。

【解決手段】 利用者へ所定期間分の献立を提供する通信ネットワーク上に設けられる献立提供システムは、前記所定期間の日々の献立と、前記各献立の料理レシピと、前記所定期間分の献立に必要な全ての食材の分量等を含む食材情報が記載された食材リストとを通信ネットワークを介して前記利用者へ提供する。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-265259
受付番号	50001117373
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0096
作成日	平成12年 9月 4日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 9月 1日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [593151332]

1. 変更年月日 1996年 6月 3日
[変更理由] 住所変更
住 所 東京都目黒区八雲3丁目4番17号
氏 名 仁科 雅夫